

門川町立西門川小学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本県の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

① 平成17年度学力調査の結果 ※ () 内は18年度

	国 語	社 会	算 数	理 科	平均
自校の平均点	86.0 (91.3)	83.8 (80.2)	79.0 (86.0)	79.5 (88.2)	82.0 (86.4)
管内の平均点	72.5 (74.9)	70.8 (70.9)	74.0 (76.4)	63.4 (70.5)	70.2 (73.2)
県の平均点	75.0 (76.6)	72.6 (71.8)	75.7 (76.2)	65.3 (70.6)	72.2 (73.8)
来年度の目標平均点	88.0 (80.0)	85.0 (80.0)	80.0 (80.0)	80.0 (80.0)	

② 平成17年度学力調査の結果からの課題

<p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 数量や図形についての表現・処理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数の減法 (25%) → (県: 58.4%) ・ 四捨五入 (50%) → (県: 84.9%) ○ 数学的な考え方 ・ 文章題; 四則の混合した計算 (50%) → (県: 72.6%) <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験の技能・表現 ・ 星座早見盤の使い方 (25%) → (県: 58.4%)
--

(2) 意識調査結果からの課題

<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のはじめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を始めたなら、他のことに気をとられないで、集中している。(25%) → (県: 61.7%) ○ 学習環境の整備 ・ 正しい姿勢で学習している。(25%) → (県: 59.3%) ○ 授業を受ける姿勢 <ul style="list-style-type: none"> ・ ふだんから、ちこくや忘れ物をしないようにしている。(50%) → (県: 82.4%) ○ 基本的な生活習慣 ・ 朝、自分で起きることができる。(25%) → (県: 68.6%) ○ テレビを見る時間 (平日 120分、休日 120分) → (県: 平日 95.5分、休日 109.7分) ○ ゲームをする時間 (平日 37.5分、休日 142.5分) → (県: 平日 27.3分、休日 45.4分)
--

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

- ① 基礎的・基本的な内容の確実な定着と個性を生かす教育の推進
- ② 主体的に学ぶ力を育てる学習指導法の工夫・改善
- ③ 学校図書館の整備と読書指導の推進
- ④ 国際理解教育・情報教育の推進

(2) 教育課程内の取組

① 複式指導解消の工夫

本校は、小・中連携による推進拠点校に指定され、小・中兼務の教員が配置されており、第4・6学年の国語科においては中学校の国語科の教員が担当した。また、第3・5学年の算数科は、教頭が担当した。これにより一部複式指導を解消し、少人数単式指導によるきめ細かな指導が行われた。

② 複式指導におけるガイド学習の導入

これまで間接指導時の学習の深まりに課題があったが、ガイド学習を導入することにより、児童だけで主体的な学習が進められるようになり、自力解決能力を高めることができた。

③ 学力検査の分析及び学力テストの実施と分析

5月に実施した第5学年の学力検査と、2月に全学年を対象に実施した国語・算数の学力

テスト（CRT）結果の分析をもとに、本校における課題を洗い出し、いつ・どのようにして解決をするか協議し、全校で補足的な学習（学び直し）を継続して実施した。

④ 調べ学習の工夫

2学年の学習を複式指導する場合、校外での学習に制限がある。そこで、インターネットやビデオ教材を活用した調べ学習を多く取り入れた。

(3) 教育課程外の取組

① 補充・発展的な指導の充実と読書指導

朝の時間（8：10～8：30）を以下のように活用して指導の充実を図った。

	月	火	水	木	金
8:10	読書	ぐんぐんタイム	読書	スキルタイム	読書
8:20	-----	-----	-----	-----	-----
8:30	(職員朝会)	(国語)	(職員朝会)	(算数)	(職員朝会)

読書については、職員朝会前の10分間は担任が在室して指導を行った。

ぐんぐんタイムとスキルタイムにおいては、20分間担任の準備した問題によって、補充・発展的な指導を行っている。また、月に3、4回は担任が交代（教師間交流）することで、マンネリ化を防ぐとともに、全学年の学力の実態を把握するように努めている。

② サマースクールの実施

夏季休業中の7月下旬と8月下旬に各2日間の午前中、2地区に教員が出向いて、個別指導が必要な児童を対象に課題別の学習指導を実施した。

③ 小・中連携による共通理解

年間20回を越える合同研修会の中で、学習指導及び生徒指導において、独自に行うことと共通して行うことがはっきりとしてきた。また、小中の教員が一緒になって児童生徒を育てるという意識が高まり、互いに望むことを提案・協議・実施・改善できるようになってきた。

(4) 保護者・家庭、地域との連携

① 家庭・地域に向けた情報の発信と公表

学級通信や週1回発行の学校便りの中でも、児童の学習や行事の様子、家庭・地域へのお願い、学力検査や学校評価の結果等に関する情報を発信した。また、保健便りにおいても、「早寝・早起き・朝ご飯」の重要性等、健康生活を支える基本的な生活習慣について啓発を図っていった。

② 「西門川の教育を語る会」の開催

年3回（学期に1回）地域の有識者とともに、西門川小中学校における教育の在り方について考える会を開催した。学校側からは、児童生徒の学力や生活態度についての報告と授業や行事への協力依頼を述べ、地域からは、学校教育への期待と地域での児童生徒の様子が報告された。それを受けて、互いに質問や意見を交わす等、西門川小中学校の未来について考える機会となっている。

③ 23が60（にさんがろくまる）運動の推進

小中連携の中での取組として、毎月23日をはさんだ1週間、家庭で合計60分間の読書運動を展開した。朝の読書活動とも重なり、児童の読書量や質が向上してきている。

3 成果と課題（今後の取組を含む）

(1) 成果

- 学力検査及び学力テスト結果の分析から明らかになった本校の課題に対して、授業はもとより、朝の学習や家庭学習において意図的に解決を図ったことにより、学習内容が定着した。
- 小中学校の職員が連携し、学力の向上に取り組む体制ができた。

(2) 課題

- 社会科と理科における複式指導は、体験を通じた問題解決的な学習が困難であった。年間指導計画の中での単元の組合せや、一部教科担任制の導入を検討する必要がある。